日本ビジネス実務学会　関東・東北ブロック研究会主催

第2回公開講座　「図で考えれば、世界が見える！」（2017.9.11）

昨年9月の公開講座『論文作成法の基礎を学ぶ～実践を論文する～』が大好評であったのを受け、本年9月11日（月）に第2回公開講座を大妻女子大学にて開催した。今回は、「図解思考の伝道師」で、図解によるキャリアカウンセリングを提唱されている久恒啓一先生（多摩大学教授・副学長）をお招きした。久恒先生は20年以上にわたり、企業や行政などの課題解決に携わられた実績をお持ちで、図解の第一人者でいらっしゃる。当日は富山や宮崎から駆けつけた会員・非会員の受講者が胸を膨らませ講座に臨んだ。

まず、久恒先生の冒頭の言葉、「図解とは、物事の関係性を表すものなのです」「図解によって問題解決がなされる場合、発言者の立場（職階）に関わらず問題点が浮き彫りにされ、解決策も見えてきます。しかも、誰もがその結論に納得させられてしまうのです」「文章で全体の構造や部分の関係性を表すのは難しく曖昧になり、個々の仕事量、優先順位、影響力の大小を伝えるのは困難です」だから、「図解で描ければ、論文も書けます」に、会場は静かに引き込まれていった。

次に、日本史･『世界の名著』の理念・大学改革・企業の事業構想等の事例を図解で示され、全体像と関係性が一目で理解できる図解の力と活用法を説明された。そして、図解上のキーワードを翻訳しさえすれば、「図解は言葉を超えるグローバル言語になる」と熱く語られた。図解は、「思考の民主化」を促進する大きな可能性を持つ表現手法になるのではないかと感動さえ覚えた。

後半のワークでは、「自分の仕事を図解する」という課題の下で進められた。受講者が描き始めてみると、日常の仕事なのに全体像を掴みきれず、多くの方々が戸惑っている様子であった。誰と何とどんな関係なのか、どんな利害関係か、自分の位置は、優先順位は、仕事の最終ゴールは何か等々、考えるほどに迷い、なかなか図解できずに苦労していた。

その後、グルーブ内で図を基に意見交換し、全体で感想を発表した。受講者からは、「図解にすると課題や足りないこと、やらなくてもいいことが見えてくる」「書き直しをすると進化し、方向性が見えてくる」「なぜ時間が足りないのか、ワークライフバランスへのスタンスまで見えてくる」など、新しい発見や疑問、驚きの感想が挙げられた。熱気の中で予定時間を大幅に過ぎてもご対応くださった久恒先生に心からの感謝を申し上げたい。

ブロック研究会では、皆さんの研究活動や業務に役立つ公開講座を今後も企画し、学会活動の活性化に繋げたいと考えています。これからもよろしくお願いいたします。お疲れ様でした。

参考文献　久恒啓一（2002）『図で考える人の図解表現の技術‐思考力と発想力を鍛える20講‐』日本経済新聞社

（文責　運営委員　澤田裕美）